

# Topics

## ESG説明会を開催

2023年12月に当社にとって初めてとなるESG説明会を東京で開催しました。証券アナリストや機関投資家の方にご出席いただき、当社の持続的な成長に向けたESG（環境、社会、ガバナンス）の取り組み、具体的な項目としては、気候変動防止、ダイバーシティ経営・健康経営の推進、人材育成、人権の尊重、持続可能な調達の実現、コーポレートガバナンスを重点的にご説明しました。



ESG説明会を開催

## 2023年CDP気候変動スコアで「A-」を取得

CDPとは、グローバルな環境情報開示システムを運営する英国の非営利団体(NGO)で、機関投資家と連携して企業に対し気候変動への取り組みや温室効果ガス排出量等に関する情報開示を求めています。

当社は、2022年からCDP気候変動質問書への回答を行い、今回は2022年のスコアから1ランクアップした「A-」スコアと評価されました。リーダーシップレベルに位置付けられる「A」および「A-」のスコアは、脱炭素社会の構築に先導的と評価される企業に付与されるもので、「A-」以上のスコアを取得した国内特殊鋼専門メーカーは当社のみとなります。



## 特殊鋼製品の環境情報を開示する環境ラベル「SuMPO EPD」(旧称：「エコリーフ」)の認証を取得

SuMPO EPD(旧称：エコリーフ)とは、LCA(ライフサイクルアセスメント)手法を用いて製品の資源採取から製造、物流、使用、廃棄・リサイクルにわたる全ライフサイクルを踏まえた定量的な環境情報を開示する環境ラベルです。第三者検証によって信頼性・透明性が確保されたデータを開示することで、お客様が使用する製品に関する定量的な環境負荷を評価し、環境に配慮した製品を選択するうえでの判断材料とすることが可能となります。

自社で製造・販売する特殊鋼製品(軸受鋼、機械構造用鋼合金鋼、機械構造用炭素鋼、工具鋼)についてSuMPO EPDの認証を取得したことで、当社製品に関する客観的で透明性の高い環境情報をお客様に提示することが可能となりました。これからも、環境に配慮した高品質な特殊鋼製品の提供を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



◆一般社団法人サステナブル経営推進機構  
「SuMPO環境ラベルプログラム」  
<https://ecoleaf-label.jp/>

## 再生可能エネルギー電力活用開始(水力発電、太陽光発電)

2024年4月から兵庫県内の水力発電所に由来する再生可能電力の購入を開始しました。

当社の本社・工場が立地する兵庫県は山間部が多く、河川の流れ等を利用した水力発電所が数多く設置されています。こうした周辺地域の自然に恵まれた環境から生み出される環境価値を積極的に活用するため、兵庫県内の水力発電所に由来する再生可能電力について、購入可能な電力の全量である年間4,000万kWhを購入し、特殊鋼製造に必要な電力として使用しています。なお、購入量は当社の年間使用電力の約5%に相当し、当社の事業所内で排出される温室効果ガス(以下、「GHG」\*)排出量を約17,000トン/年削減することが可能になります。

2024年7月から本社工場での太陽光発電を開始しました。PPAモデル\*\*による自家消費方式で建物面積約5,600m<sup>2</sup>の製品倉庫の屋上に太陽光発電設備を設置しています。

このたび設置した太陽光発電設備により、製品倉庫および本社事務所の年間電力消費量を上回る約60万kWh/年の電力を太陽光発電による再生可能エネルギーで賄うことが可能となります。この太陽光パネルの容量は512.43kWで、年間約260トンのGHG排出量を削減できる見込みです。

※1 GHG：Greenhouse Gasの略称。地球温暖化の原因となる温室効果ガスである、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)、メタン(CH<sub>4</sub>)、一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)、ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)、パーフルオロカーボン類(PFCs)、六フッ化硫黄(SF<sub>6</sub>)、三フッ化窒素(NF<sub>3</sub>)の7種類を指す。

※2 PPA(Power Purchase Agreement)モデル：

電力使用者が提供した敷地や屋上等のスペースに、太陽光発電設備の所有・管理を行うPPA事業者が発電設備を設置し、発電された電力を電力使用者に供給する契約形態。



製品倉庫屋上の太陽光発電設備

## 「環境配慮型電気炉鋼材WG」に参画

2024年3月、当社は経済産業省が設立したGXリーグ\*\*の「グリーン商材の付加価値付けに関する提言書\*\*」に基づき、国内の電炉会社29社(普通鋼22社、特殊鋼7社)によって発足した「環境配慮型電気炉鋼材WG」に参画しました。

本WGでは、電炉事業者が市場に供する鋼材の基本価値(性能・品質など)に対する新たな付加価値として、鋼材の製造工程に付随する環境負荷の低減価値(グリーンプレミアム)を持つグリーン商材「環境配慮型電気炉鋼材」の事業活用(販売・標準化)の検討をしています。

※1：2022年2月1日に経済産業省 産業技術環境局が発表した「GXリーグ基本構想」に基づき設立。GXに積極的に取り組む「企業群」が、官・学・金でGXに向けた挑戦を行うプレイヤーと一体となって、経済社会システム全体の変革のための議論と新たな市場の創造のための実践を行う場。

※2：「グリーン商材の付加価値付けに関する提言書」は、GXリーグの「市場ルール形成WG」として2023年1月から活動を開始した「グリーン商材の付加価値付け検討WG」が2023年12月に活動成果をまとめ公開したものです。

## SSMIがCDPから表彰

2024年6月、インド子会社「SSMI」は、首都ニューデリーで開催されたCDPとインド商工会議所連盟(FICCI)の共催イベントにおいて、2023年のCDPサプライヤーエンゲージメント評価(SER)部門で最高評価の「A」を獲得する等、SSMIの長年にわたる環境への取り組みが高く評価され、表彰されました。



表彰盾を受領しました(右)



# Topics

## 温室効果ガス削減量目標を見直し

当社グループは、2024年9月にGHG(温室効果ガス)排出量削減目標の見直しを実施しました。従来、GHG排出量のうちScope1+2(直接排出+間接排出)は、当社単体のエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出量削減目標を掲げていましたが、当社単体および連結のGHG排出量を算定し、SBT<sup>※1</sup>に沿ったGHG排出量を基準とする削減目標といたしました。また、Scope3(サプライチェーンからの間接排出)に関しては、カテゴリ1<sup>※2</sup>について、取引先の皆様との協働によって、環境省の算定ガイドラインの排出係数を用いた算出値から実績値への置き換えが進んだことから、最新の状況を反映させるとともに、連結のGHG排出量の算定、目標設定も行いました。

※1：Science Based Targetの略称。「パリ協定が求める水準と整合した温室効果ガス排出量削減を目指す、国際的な削減目標」のこと。  
 ※2：カテゴリ1は、当社が購入した原材料・諸資材等が製造されるまでの活動に伴うGHG排出量ならびに外注先での外注サービスの活動に伴うGHG排出量をさす。

### <2030年度目標>

(単位：単位：万t-CO<sub>2</sub>e)

		従来目標					新たな目標				
		対象ガス	基準年度	基準排出量	目標排出量	削減率	対象ガス	基準年度	基準排出量	目標排出量	削減率
連結	Scope1+2						GHG	2021年度	110.3	64.0	△42%
	Scope3								217.0	162.7	△25%
単体	Scope1+2	CO <sub>2</sub>	2013年度	84.1	42.0	△50%	GHG	2021年度	71.7	41.6	△42%
	Scope3	GHG	2021年度	139.6	104.7	△25%			150.0	112.5	△25%

(注) 単体のScope1+2の削減率は基準年度を2013年度から2021年度へ変更したことに伴い、これまでの削減実績などを考慮し、目標削減率を△42%としています。

## 「やさしさ駐車場」を設置

2024年6月より、本社事務所前駐車場の玄関からもっとも近い4区画分を「やさしさ駐車場」として運用開始しました。十分な幅のゼブラゾーンを左右に設けることで車の乗り降りをしやすくし、安全性を高めています。「やさしさ駐車場」の名称には、利用が容易であるという「易しさ」と、利用者同士で心がけたい「優しさ」のふたつの意味を込めています。障害者、妊産婦、傷病人などの利用を想定しています。



「やさしさ駐車場」(4枠)



## (株)山陽に資本参加

カーボンニュートラルに向けた鉄鋼生産の電気炉シフト等を背景に、今後鉄スクラップの需給逼迫は避けられない状況にあります。こうした中、当社は、鉄スクラップの安定調達に向けて、調達ソースの確保・拡大や日本製鉄グループとの連携等を推進しておりますが、鉄スクラップのメインサプライヤーとして長年にわたり親密な関係を築いてきた(株)山陽の株式を取得し、同社とのパートナーシップをさらに強固なものとしたといたしました。同社への資本参加により、当社は、必要となる鉄スクラップの50%超を日本製鉄グループ含む資本関係先から安定的に確保できるようになります。



(株)山陽 金城代表取締役社長(右)と高橋取締役常務執行役員(役職は当時)

## 新独身寮「Orka SANYO」(オルカ サンヨウ)竣工

2024年3月、22年ぶりに新独身寮が完成しました。寮名にあるOrka(オルカ)は、スウェーデン語で「元気で満ち溢れた」という意味を持っており、社員が集う場となることを祈念して命名されました。若手社員たちの生活の拠点となり、性別、年代や部署を超えた「タテ・ヨコ・ナナメ」の交流の場となることが期待されます。

各部屋にバス、トイレを備え付けることでプライベート空間を確保するとともに、オートロック、防犯カメラで安全性を確保。屋内外の共用スペースで寮生の交流を生み出す設計としています。



新寮外観



室内共用スペース



植栽に囲まれた共用テラス



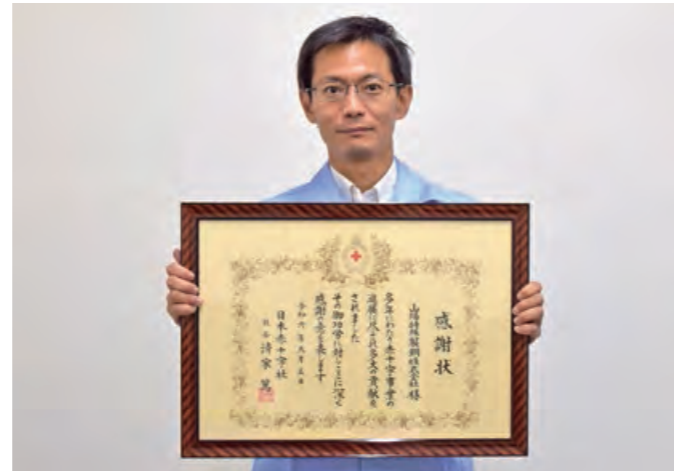
# Topics

## 日本赤十字社から献血企業表彰

当社は本社工場での献血活動を50年以上継続していることが評価され、日本赤十字社から「感謝状」を授与されました。病気の治療や手術などで輸血を必要としている患者さんの命を救うために、当社従業員が自発的なボランティア活動を継続しています。



本社工場での献血活動



感謝状

## 社外取締役と女性社員の対話

女性の独立社外取締役である藤原佳代取締役と女性管理職との座談会を2023年12月に開催しました。エネルギー関連企業で海外調達や企業経営に携わってきた藤原取締役の経験談や、女性管理職からの質問に対するアドバイスを行うことで、女性管理職のステップアップに資する機会としています。このような取り組みを継続することにより、女性社員が管理職や経営の一角を担う立場として活躍できるよう、女性社員自身の意識づけや女性が活躍しやすい職場風土づくりを推進してまいります。



独立社外取締役の藤原さん(奥右側)

## 90周年記念行事(記念植樹、家族工場見学会、海外拠点の名物料理提供)

2023年11月に当社は創業90周年を迎えました。11月18-19日の2日間に、工場見学会や各種イベントを開催し、グループ従業員のご家族、当社OB・OGをはじめ400名を超える方々にご参加いただきました。

また、世界中で活躍する当社グループの仲間達を身近に感じてほしいとの思いから「海外グループ企業のご当地メニュー試食会」を約1か月にわたって実施しました。普段口にしない珍しい料理であったことで従業員からは大変好評を得て、コミュニケーションのきっかけになりました。

2024年2月には本事務所正門付近に新入社員の手でハナミズキ10本が植樹され、次の100周年に向けて共に成長していくことを願いました。



工場見学会での歓迎挨拶



海外拠点の名物料理の試食



工場見学(連鋳展示室)



新入社員の手による植樹